



# 陸上自衛隊の概要について



令和 7 年 2 月 2 1 日  
防衛省 陸上幕僚監部  
人事教育部 厚生課

# 目次

## 陸上自衛隊の概要

- 1 陸上自衛隊の任務・役割
- 2 陸上自衛隊の態勢・体制
- 3 陸上自衛隊の募集現況
- 4 陸上自衛隊の勤務の特殊性

# 1 陸上自衛隊の任務・役割

防衛出動



治安出動



国民保護等派遣



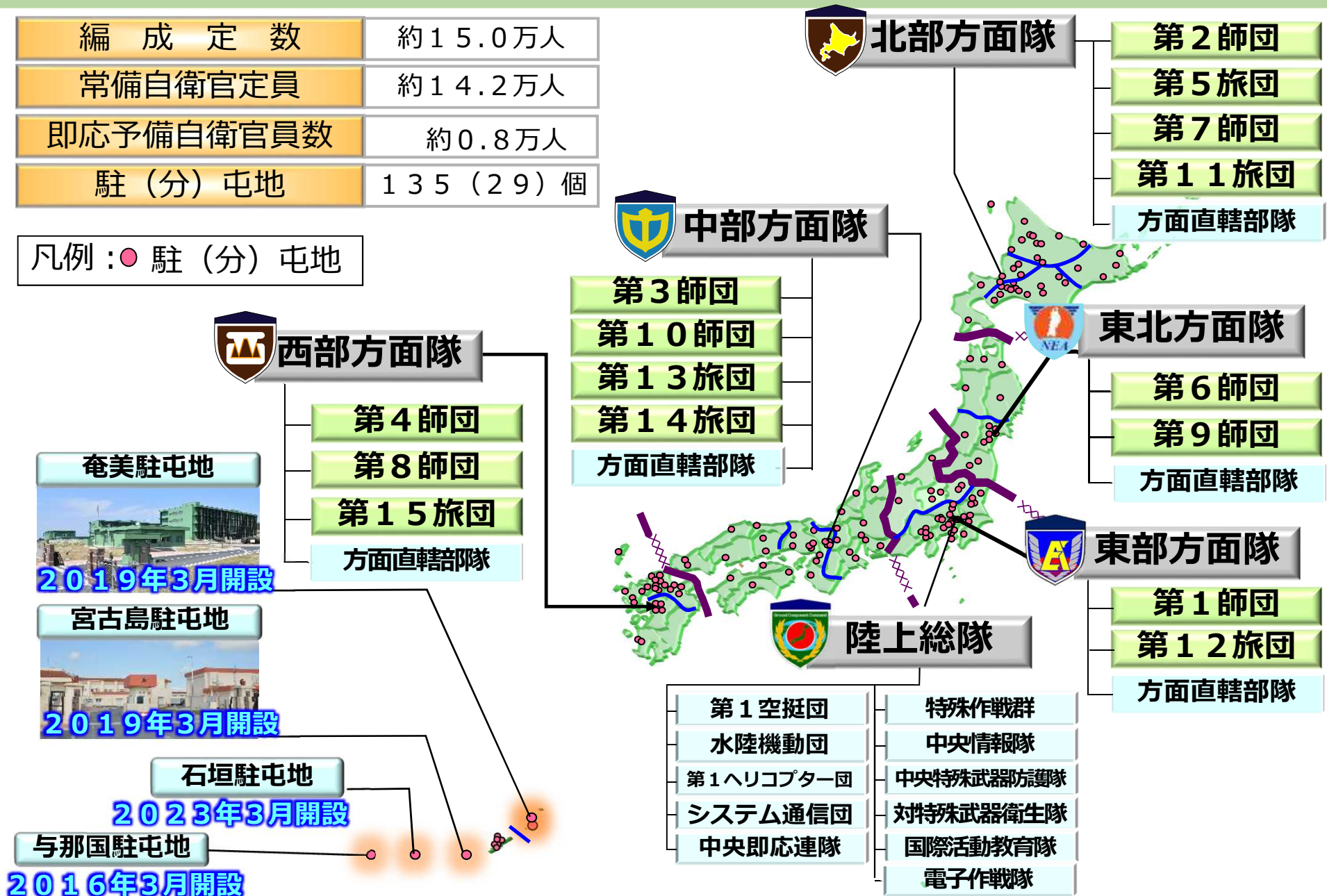
災害派遣



## 2 陸上自衛隊の態勢・体制(各部隊等の編制・配置)(1/3)

編成定数	約15.0万人
常備自衛官定員	約14.2万人
即応予備自衛官員数	約0.8万人
駐(分)屯地	135(29)個

凡例：● 駐(分)屯地



## 2 陸上自衛隊の態勢・体制(即応態勢)(2/3)

概要 要員の指定、周到な訓練等を実施して即応態勢を維持し、**国内外のあらゆる事態に即応**

### 災害派遣等

国内での災害発生に常時即応するため、**初動対処部隊**（「**FAST-Force**」※）を指定

- 全国で初動対処部隊が **24時間待機**
- 命令受領後、**1時間以内に出動**
- **震度5弱以上**で速やかに情報収集



ヘリ部隊  
(各方面隊・師旅団)



地上部隊  
(各連隊等)

**【全国の待機合計】**  
人員：約 3,900名  
車両：約 1,100両  
航空機：約 40機

- : 方面総監部
- : 師団等司令部
- : 地上部隊(情報収集、人命救助等)
- : 航空科部隊

※ First Action Support Force



## 2 陸上自衛隊の態勢・体制(即応態勢)(3/3)

### 警戒監視

- 沿岸監視部隊(与那国等)をもって24時間警戒監視



### 不発弾処理

- 各方面隊の不発弾処理担任部隊が待機(30分待機)



### 国際緊急援助隊

- 医療及び航空の各部隊が待機
- 第1派: 48時間以内に出国  
第2派: 5日以内に出国



### 国際平和協力隊

- P K O等への派遣部隊として、陸上総隊から先遣隊、北方から1次隊を指定



### 在外邦人等輸送/保護

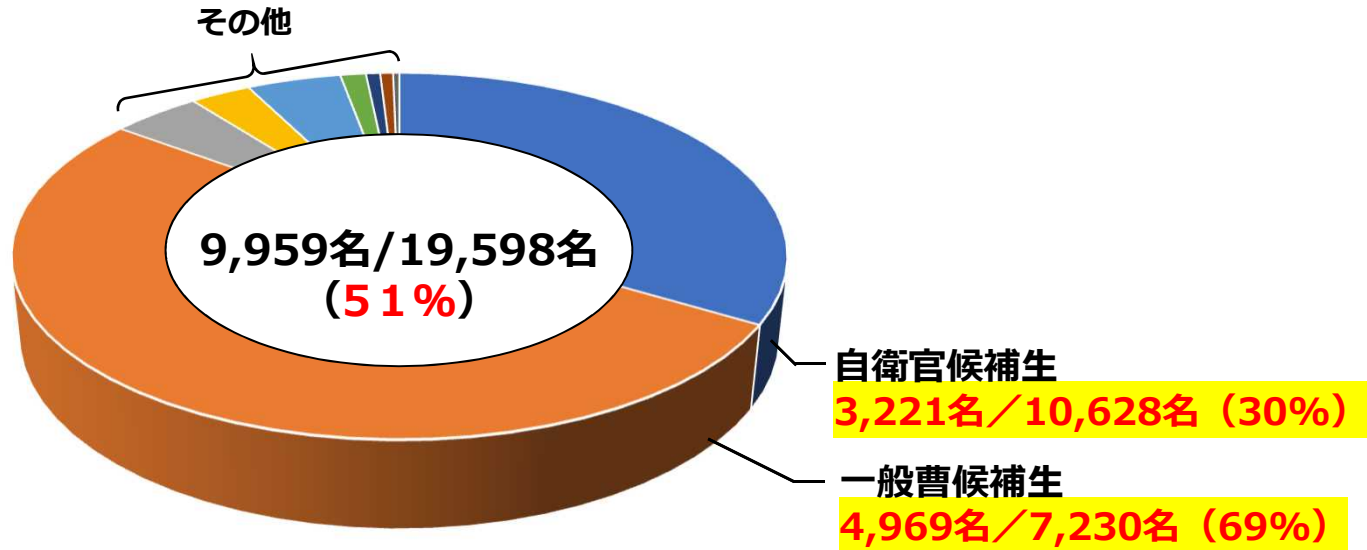
- 在外邦人等の輸送、誘導、防護等のため、各部隊が待機(中央即応連隊、第1ヘリ団、方面隊等)
- 先遣隊: 48時間以内、主力: 3日以内に移動



### 3 陸上自衛隊の募集現況

【令和5年度】

- 【その他】
- ・ 幹部候補生（歯科・薬剤含む。）
  - ・ 防衛大学校学生
  - ・ 高等工科大学校生徒
  - ・ 航空学生
  - ・ 防衛医科大学校医学科学生
  - ・ 防衛医科大学校看護学科学学生
  - ・ 医科・歯科幹部、キャリア採用幹部、技術曹、貸費学生



【一般曹候補生 (①)】

要員	採用計画数	採用数	確保率
陸上	4,200	2,532 (361)	60%
海上	1,630	1,042 (205)	64%
航空	1,400	1,395 (369)	100%
合計	7,230	4,969 (935)	69%

【自衛官候補生 (②)】

要員	採用計画数	採用数	確保率
陸上	7,030	1,897 (270)	27%
海上	1,398	444 (61)	32%
航空	2,200	880 (209)	40%
合計	10,628	3,221 (540)	30%

【2士合計 (①+②)】

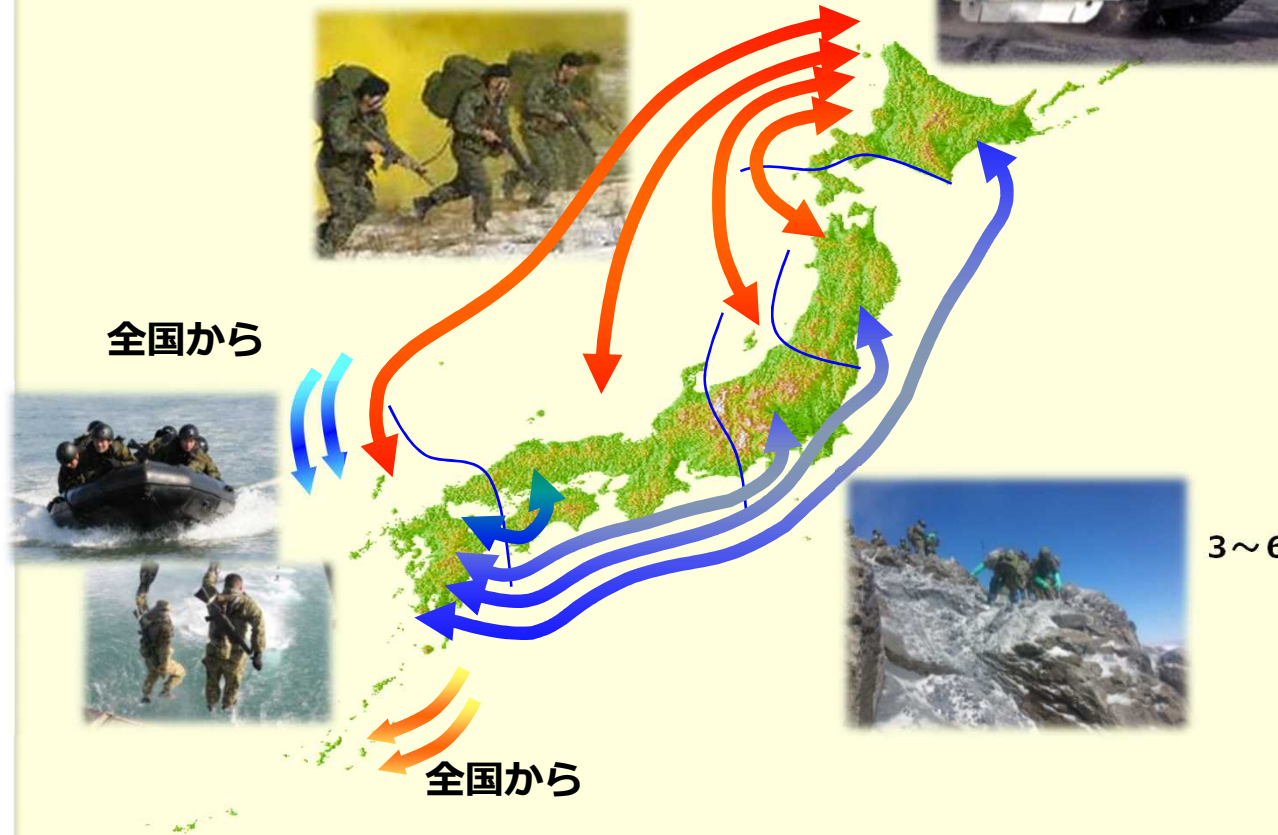
要員	採用計画数	採用数	確保率
陸上	11,230	4,429 (631)	39%
海上	3,028	1,486 (266)	49%
航空	3,600	2,275 (578)	63%
合計	17,858	8,190 (1,475)	46%

総括

- 一般曹候補生は確保率約70%、自衛官候補生は確保率約30%であり、**2士種目は大きく採用計画数未達成**（合算での確保率約45%）
- **陸自2士は、採用計画数に比し確保率39%であり、海空より低調**

# 4 陸上自衛隊の勤務の特殊性(1/3)

全国異動、警備区等内異動ともに、起点とする官署はなく**地方間の広域的な異動が主**



## 異動の一例



### 総括

- **全国異動**を経験することによって、「**国を守る戦士**」としての「**使命感**」と「**責任感**」を醸成
- 隊員が**任務の異なる部隊等**における勤務を通じて成長し、採用方面隊等に帰還することにより、**部隊及び隊員の「強靱化」**を達成

## 4 陸上自衛隊の勤務の特殊性(2/3)

### 厳格な職務遂行義務



任務遂行のため個人の自由が制限  
(危険な職務に従事、家族との別離等)

### 広範囲かつ長期の行動



長期にわたる国内外での活動  
(危険かつ過酷な環境)

### 事態即応の拘束性



平素より即応態勢を維持  
(時期を問わず緊張感を持続)

### 危険性及び劣悪性



実戦的な烈度の高い訓練  
(任務に即応可能な高い練度を維持)

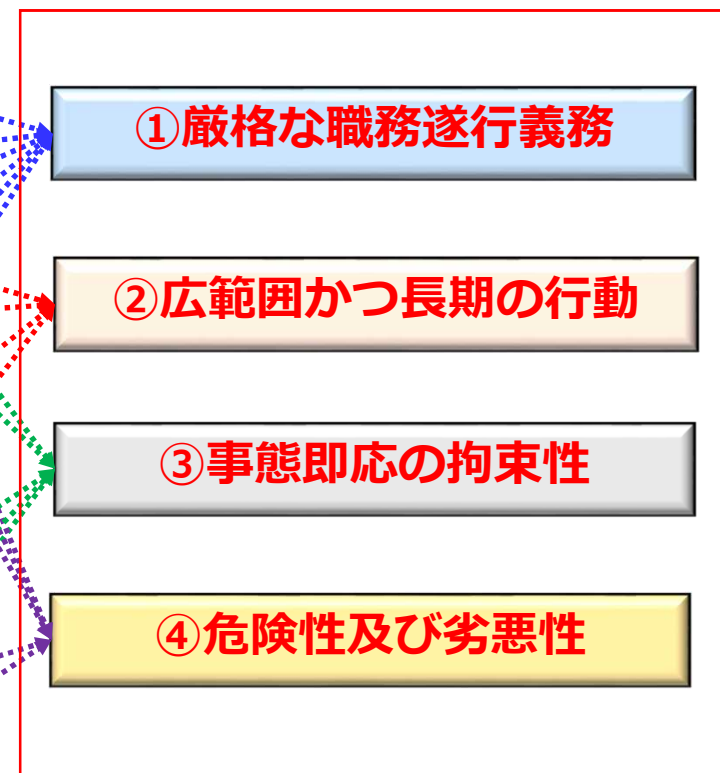
## 4 陸上自衛隊の勤務の特殊性(3/3)

**概要** 英国軍の**X-Factor** (※) を参考とし、自衛官勤務の特殊性を整理・深化中  
 ※ 英国軍人の基本給(俸給)は、同様の職務と責任を負う民間の給与水準をベースとした金額に軍人の特殊性を評価した「**X-Factor**」を上乗せ(14.5%)した構造(民間給与を準拠とした俸給構造は自衛官俸給と共通)

### X-Factor (英国軍) 【参考】

区分	評価する軍人の特殊性
自律性、管理制御性、柔軟性	自由の制限
混乱	頻繁な異動
個人及び集団の権利	争議行為への不参加
身分保障	厚い身分保障
ストレス、人間関係、仕事の影響	ストレス過多
昇進と早期の責任	昇進機会が多
家族からの別居	頻繁な家族との別居の反復
配偶者/パートナーの雇用	不規則な勤務による配偶者の就労への影響
勤務時間	残業代不支給
休暇の許可	休暇取得困難
身体的及び精神的健康に対する危険性	危険性大
訓練、教育、自己啓発	教育機会が多

### 自衛官勤務の特殊性



**総括** ⇒ 陸自が案出した4つの自衛官勤務の特殊性はX-Factorの全12区分の要素を包含  
 ⇒ X-Factorのみならず、外国軍における**軍事の特殊性**(民間人と軍人の違い)も参考とし、特殊性に係る整理へ反映